



「江戸時代の庄屋屋敷 本岡家住宅」

平荘湖の奥に加古川市立少年の家がありますが、その敷地内に兵庫県指定文化財の「本岡家住宅」があります。現在も地域の子どもたちが伝統文化を学ぶ教室の会場となって活用されています。

本岡家住宅は、元禄7(1694)年に建築された民家です。移築の際の解体修理で見つかった棟札から建築年が判明しています。現在は東神吉町天下原にありますが、保存活用するために所有者から市へ寄付を受け、平成10(1998)年に八幡町下村から東神吉町の少年自然の家敷地内に移築再建工事を行いました。

本岡家は天正年間(1573~92年)に八幡町に居を構えた武士の流れをくむ家系と伝えられ、代々庄屋を務めたことから「大屋」の屋号を持っています。

さて、この「本岡家住宅」は、同じ床の間が2つ並んでおり、6間取りの広い様式は江戸時代当時の庄屋であった構造を示す貴重なものです。また、普通下屋は、母屋とは別の付属施設につく屋根ですが、母屋と一体となっているのは大変に珍しいものです。

この貴重な建物であり、江戸期の文化を感じさせる空間を見守りながら、受け継いでいくことが求められています。



ぶらり加古川第20号

平成28年2月